

外国語習得に向けて

TOWARDS ACQUIRING A FOREIGN LANGUAGE

Rokiah Pae (ロキア パイー)

Centre for Language Studies, Universiti Malaysia Sarawak
prokiah@cls.unimas.my

Abstract

Learning another language other than our mother tongue has become a necessity in today's globalized world. More and more people are engaged in learning new languages due to various reasons, which range from interest in the culture to academic purposes. In this short article the author shares some suggestions on matters that need to be considered to make the learning experience both enjoyable and meaningful for learners with different needs.

Keywords: foreign language learning, learning needs.

国際化に伴い、母語だけでは間に合わず、他の言語への習得が求められるようになってきた。このような時代に適応するためには、外国語学習をし始める学習者が年々増加する傾向にある。就職、勉学、文化への興味など多種多様なニーズから始まった外国語学習に対応できるような学習内容または学習のあり方が求められている中、どこまで学習した内容を実際に身につけて、使いこなせるかという学習の習得度が問われている。

学習には誤りはつき物であり、それを通して、何かを習得していく。生まれたばかりの赤ちゃんは歩けないがある時期になったら歩けるようになる。しかし、「歩く」という行為ができるようになるまでには、時間はかかり、そこに至るには、「四つんばい」「ヨチヨチ歩き」などのようないくつかのプロセスを経なければならぬ。最初は足は弱いから何かにつかまえて、練習するが、だんだん力が付いてきて、やっと 2 本の足でしっかりと立つことができるようになる。練習中には転ぶことの繰り返しが起こるがこれは赤ちゃんにとっては大事なプロセスであり、通らなければならない道である。このようなことはすべての学びの場には適用する。新しいことを学ぶとき、慣れるまでには時間はかかるが、それでも続けていくと、コツがつかめて、段々と、早く、上手くできるようになる。

語学学習においても例外ではない。母語の場合はほとんどは自然の形で習得していくが、外国語の場合の多くは学校教育を通して学習していく。しかし、学習しても、身につかなくて、使いこなせないという例は大いにあることは確かである。つまり、学習したことは習得されていないのである。習得につながらない理由は多種多様で、原因究明に関してはさまざまな研究がなされている。その中のひとつは習得度に重きを置いていないところにあると考えられる。では、どのようにすれば、

一定の学習期間で目標言語への習得度が伸ばせるのか。

「習得度重視」ということを考える際、以下のことが考えられる。

■ **無駄な作業をできるだけ省くこと**

外国語学習において、暗記は欠かせないものであるが、情報ツールが発達した状況では、暗記の必要性はかなり減る。暗記を求めるのは、本当に暗記しなければならない内容だけに限る。そのためにも、暗記の必要性を減らす環境を整備することが重要になってくる。

■ **学習者のニーズに対応できる学習のしかた**

あまり興味のない項目では学習はとどまる可能性が高い。持続させるためには、学習者に合った学習の仕方を提供することが考えられる。音楽が好きな学習者には、音楽を聞かせ、歌詞を記憶させること、または、漫画が好きな学習者には漫画を与え、読ませたり書かせたりすることなど、適切に対応する。学習者に合った学習刺激を与えることで学習者が持っている能力を最大限に発揮でき、能力は伸ばせるのである。

■ **学習者の達成感の考慮**

新しいことができるようになることは嬉しいことである。特に困難が伴うものに関してはなおさらのことである。学習者に合ったやり方はもちろんのことだが、学習する際は学習者に赤ちゃんのような「転ぶ経験」を与えることは場合によっては必要である。

■ **サポートの充実**

誤りがつき物であるため、フィードバックが絶対必要である。どのようなフィードバックが適切か、どのようにフィードバックするか、フィードバックのあり方によって、結果に影響を与えるため、大いに考慮する必要がある。

習得に向けての学習方法は数多くあるが、学びは面白いということを学習者に感じさせることで学習の動機付けの維持につながる。